

校訓	真 善 美	令和7年度 学校だより	発行日	令和7年8月28日
教育目標	自ら考え、協働し、共に未来を 創造する生徒の育成 —認め合う心、確かな学力、健やかな心身を育てる—	「荒中だより」 8月 葉月 第10号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 二宮 啓二

2学期のスタートです【始業式 校長講話】

今年の夏は、まさに“酷暑”でしたね。連日35度を超える暑さが続き、40度近くまで上がる日もありました。外に出るだけでも体力を奪われるような毎日でした。そんな中でも、皆さんは家庭学習や部活動、日々の生活や読書などを通して、時間を有効に使い、意義深い夏休みになったのでしょうか。また、この機会ならではの経験や、何かをやり遂げた満足感を得ることができたのでしょうか。

夏季総体において、男子バレーボール部が兵庫県大会を優勝し、近畿大会で見事に3位となり、長崎で行われた全国大会に出場しました。全国大会までの過程の中で、追い込まれた厳しい試合が何度もありましたが、その都度、ミスや失点から学び、次の行動を考え、諦めずに粘り強く相手に立ち向かう姿に、大きな感動がありました。仲間とともにチーム一丸となって栄光を勝ち取った男子バレー部の皆さん、改めておめでとうございます。



教育長へ表敬訪問を行いました

また、私はこの夏、大阪・関西万博を訪れました。炎天下の中、多くの人が集まり、未来の技術や各国の文化に触れていました。特に印象的だったのは、各パビリオンで紹介された未来の都市の姿でした。どのブースにも共通して、「人の命と暮らしをどう守り、どう輝かせるか」というメッセージが込められていました。試行錯誤の上に培った技術や研究の成果を目の当たりにするとともに、「今を生きる自



分たちも未来をつくる一員である」と感じ、たくさんのことを考えさせられました。同時に、中学生の皆さんがこれから学ぶこと、考えること、行動することが、きっとその未来につながっていくのだと強く感じました。

皆さんは、「成功」の反対は何だと思いますか？「失敗」という言葉が頭に浮かんだ人がいると思います。お世話になったある先生から「成功」の反対は「何もしないこと」だと教わったことがあります。毎日は失敗の連続で、思い通りにいかないことも多くあります。そんな時、どうすればよかったのかを考え、それを糧^{かて}として、次のチャレンジをする。つまり、**失敗を成功のための学びととらえる**のです。

“過而不改 是謂過矣”

『^{あやま}過^{あらた}ちて改めざる、これを^{あやま}過ちという』という孔子(昔の中国の思想家)の言葉です。これは「**失敗(過ち)に気づいたのに改めず、そのままにしておくことこそが、本当の失敗(過ち)である。**」という意味です。「失敗はやむを得ないが、自分が間違いと気づいたなら、それは改め、次に活かせ」と教えてくれています。

失敗は自分自身の心の弱さや^{ゆる}緩みから生じることも多いものです。**成功とはその失敗や挫折から立ち上がり、考え、諦めずに進み続けた先にあるものです。**皆さんも希望や夢が^{かな}叶うことを願って、ただ待っているだけでなく、自分から動き出してください。

2学期は、体育大会や学習発表会など、学校生活の中でも特に行事が多く、仲間と協力する場面が増えます。そういった行事や日々の生活の中で、上手くいかないことや失敗してしまうこともあるかもしれません。そんな時こそ、皆さんには、**成長の瞬間だ**と思って、前を向いて行動をしてほしいです。

3年生の皆さんにとっては、いよいよ進路に向けた本格的な取り組みが始まる時期です。自分の将来を見つめ、悩み、考え、選び取っていく時間が始まります。**焦らず、でも真剣に、自分の声に耳を傾けてください。**先生方も全力でサポートします。時にはくじけそうになるかもしれませんが、粘り強く**一歩ずつ、確かな歩みを進めて**いきましょう。

「**自分の未来は、誰かがつくってくれるものではなく、自分の行動がつくるもの**」です。2学期の毎日が、学級や学年の団結を高め、集団の中の自分をじっくりと見つめ、皆さん一人ひとりにとって、未来への一歩となることをお願いして、2学期始業式の言葉とします。